

大鹿村中央構造線博物館たより 67号



断層のずれ動きにより破損した、
土手の法面（白馬村堀之内地区）

休館：月・火曜、年末年始（12月28日～1月3日）
TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

白馬村にて地表地震断層調査

11月22日（土）22時8分頃、長野県北部を震源としたマグニチュード6.7（気象庁暫定値）、最大震度6弱の地震が発生しました。震源断層は糸魚川 - 静岡構造線活断層系という長大断層の一部である神城断層で、長野県北安曇郡の白馬村と小谷村を縦断しています。

この地震により地表に現れた断層などを調査するため、11月29日（土）、白馬村へ行ってきました。

当日は地震から1週間経過していたのですが、被害が大きかった白馬村の三日市場、堀之内地区などは割れた窓にブルーシートを貼った家屋が目立ち、倒壊した建物の撤去も途中でした。また、田畑の中には断層による地割れを確認することもできました。

今回の地震による被害は、建物が倒壊している地区もあれば、川を挟んで隣の地区では棚から物が落ちた程度で済んでいるというように、非常に局所的だったようです。

実際に現地に行くことは、今、起きていることを受け止めるという意味で、とても良い経験となりました。アスファルトや田畑にできた段差、倒壊した建物を見て、改めて大地が動いていること、計り知れない力を持っていることを感じました。

最後になりますが、被災された方々が1日も早く以前の生活に戻れるよう、心よりお祈り申し上げます。（榊原）



屋根が崩れ落ちた建物（白馬村堀之内地区）

「100年前の大鹿を知る－中川豊さんのお話を聞く会」を開催しました

11月2日（日）と12月7日（日）の2回にわたり、「中川豊さんのお話を聞く会」を博物館の学習室で開催しました。生まれも育ちも大鹿村の中川さんに、子ども時代の暮らしや村の歴史についてお話を伺いました。

中川さんが子どもの頃は、ご飯はお米だけで食べることはなく、雑穀を混ぜて食べていたそうです。また、当時はどこの家でも漢方薬で風邪や怪我を治しており、身近な植物などを利用していただいていたそうです。ユキノシタには発汗作用があり、熱を下げるために利用していたこと、下痢にはキハダの樹皮を煎じて飲むと治ることなどを教えていただきました。熱中症には、なんとヘビヤガマガエルの胆のうが効くそうで、干したものをお湯で戻して飲むと吐き気が収まり、すぐに治ったそうです。

中川さんが中学生の頃は、大鹿村内の各神社に歌舞伎の舞台があり、上演されていたそうです。歌舞伎には、作物の植え付け時期に行われる春は豊穰を願うため、刈入れ時期の秋はそのお礼の意味が込められているそうです。江戸時代、風紀を乱すとして禁止されたこともありましたが、大鹿では隠れてでも上演されていました。当時は交通の便が悪いため、村外から歌舞伎を見に来る人などおらず、村民のための娯楽でした。

馬のいる暮らしについても伺いました。かつて馬は移動手段、戦、農耕など様々な役に立つため、重要でした。大鹿ではどこの家でも1頭は飼っていたそうです。家の中に馬屋がある家も多く、馬を大切にしていたということがわかりました。

海外から安価な木材が輸入される前の時代、日本の林業が栄えていた頃は、大鹿も大きな恩恵を受けていました。当時の大河原には林業に携わる多くの若者が住み、夜もにぎやかだったそうです。そのため子どもの数も増え、学校に入りきらなくなるほどにもなったそうです。また、落合には病院もあったそうです。

この他にも、大鹿には縄文時代から人が住んでいたこと、宗良親王のお話、火事が起きないことを願い、火伏の神様である秋葉神社にお参りに行っていたことなど、様々なお話を聞かせていただきました。勉強になると同時に、中川さんの知識の豊富さに驚かされました。Iターンの方は勿論、長年大鹿にお住いの方でも知らないお話もあったようです。貴重なお話をしていただいた中川さんに、この場を借りて改めてお礼申し上げます。実体験による臨場感あふれるお話、本当にありがとうございました。(榊原)

御岳火山の噴火について

9月27日、御岳火山が噴火しました。マグマは噴かず、地下水が温められて水蒸気の圧力が上がり、火口をふさいでいた溶岩や火山灰を吹き飛ばした水蒸気噴火でした。御岳は1979年に噴火し、1995年、2007年にも噴火しています。1979年に噴火した当時は3000年ぶりの噴火と考えられたため、それまで使われていた「活火山」の区分が見直され、1万年以内に噴火した火山を活火山と見なすようになりました。「休火山」や「死火山」という区分はなくなりました。その後の調査で、御岳では1万年前から1979年までに少なくとも4回のマグマ噴火と11回の水蒸気噴火があったことが分かっています。

御岳は、過去には何度も大規模な噴火をしています。実は、伊那谷の赤土のほとんどは御岳の火山灰です。御岳の火山活動はおおよそ75万年前に始まりました。約10万年前には大量に軽石を噴き出して火山体の中央が大きく陥没し、直径6～5kmのカルデラができました。軽石はマグマに溶けていた水蒸気などが発泡してできた孔の多い、白っぽい火山噴出物です。もとのマグマの成分の違いのため黒っぽいものはスコリアと言います。伊那谷に降り積もった火山灰を研究してこられた中川村の寺平宏先生によれば、この軽石が砕けて噴き上がった火山灰は東日本を広く覆い、駒ヶ根市中沢や伊那市長谷では3m以上、甲府盆地や上野原でも1m以上堆積しています。

御岳はその後も繰り返し伊那谷に火山灰を降らし、伊那谷の扇状地をつくった礫層を覆っています。特に約10万年前の白い軽石、約9万年前の黄色い軽石、約6万年前の赤いスコリアは、厚くカラフルな3枚の層になっていて、工事で切り取られた崖などに良く目立ちます。

大鹿では火山灰は斜面で流れてしまったり、地すべりで下の地面ごと動いてしまったりで、ほとんど残っていません。けれども大池の窪地にはよく残っていて、大鹿では珍しい、石が無く耕しやすい農地になっています。寺平先生によれば、大池の火山灰層の地表から深さ2.2m～2.4mには阿蘇山から8万8000年前ごろに飛んできた火山灰が含まれ、その下には御岳の約9万年前の黄色い軽石があるそうです。ただし火山灰層のいちばん下までは掘れなかったため、大池の地形ができて火山灰が積もり始めた年代は分かっていません。(河本)